

# 序

社会医療法人財団白十字会 理事長 富永 雅也



社会医療法人財団白十字会は、1929年、初代理事長富永猪佐雄が佐世保市宮崎町に診療所を開いて以来、長崎大学、福岡大学、九州大学、佐賀大学や医師会の先生方を始め、関係各位のご指導とご援助をいただきながら、昭和・平成と80数年間を歩んでまいりました。

さて、2018年を振り返りますと、その年の世相を表す「災」という字が象徴するように、国内におきましては、大阪府北部地震をはじめ、西日本豪雨、記録的猛暑、大型台風、そして北海道胆振東部地震と相次いで甚大な被害がもたらされ、改めて自然災害の恐ろしさを痛感する1年となったのではないのでしょうか。

しかし、私たちはこれまで、自然災害をはじめ様々な脅威に打ちのめられそうになりながらも、長い歴史のなかで培ってきた叡智を次の世代へ受け継いできました。それを如実に表した明るいニュースが昨年、医学の世界から届きました。京都大学の本庶佑特別教授による、ノーベル医学生理学賞受賞のニュースです。本庶先生は、がん細胞を攻撃する免疫細胞にブレーキをかけるPD-1と呼ばれる分子を発見し、新たな治療薬である「オプジーボ」の開発につなげました。そもそも、PD-1が最初に発見されたのは1992年でした。そこから、長年にわたり世界中の研究者および製薬会社との研究がなされ、地道な努力の積み重ねの結果、従来のがん治療の3本柱だった手術、放射線治療、抗がん剤とは異なるアプローチで、「がん免疫療法」という第4の道を切り拓きつつあるのです。

本庶先生は、若い研究者へのエールとして「Curiosity(好奇心)」「Courage(勇気)」「Challenge(挑戦)」「Confidence(確信)」「Concentrate(集中)」「Continuation(継続)」の「6つのC」が大切だと話しています。これは、決して研究に限らず、私たちの日々の職務にもあてはまるのではないのでしょうか。

2019年、白十字会は90周年の節目を迎えます。長い法人の歴史のなかで、一人ひとりの日々の努力の積み重ねが、今日までの白十字会を形成しています。新しい「令和」の時代を迎えながらも医療・介護の問題が山積する今日において、道を切り拓く白十字会でありたいと切に願っております。

このたび、礎病院長のリーダーシップのもと、関係各位の尽力により佐世保中央病院の2018年度病院年報が完成いたしました。ぜひお手に取って、最高のチームの中身を知っていただければと思います。

いつも佐世保中央病院に賜りますご厚情に深く感謝、お礼を申し上げ、関係各位の今後共にご指導とご援助をお願い申し上げます、序文といたします。

# Annual Report 2018 発刊にあたって

佐世保中央病院長 碓 秀樹



Annual Report 2018〔病院年報〕の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

日頃、佐世保中央病院の運営に関しまして、多大なるご協力をいただきまして心から感謝申し上げます。さて2018年度は、列島各地でこれまでにない多くの災害に見舞われた中、サッカーW杯ロシア大会での日本の活躍、大阪なおみ選手の全米オープンテニス優勝、大谷翔平選手の活躍など、多くの元気をいただいた一年でもありました。

当院は2018年8月より、1病棟（3東病棟45床）を急性期から回復期（地域包括ケア病棟）に転換しました。しっかりした準備と、医師を含めた全職員の理解、患者さんご家族の協力のもと、スムーズな転換、運用ができました。今後も在宅からのサブアキュートの患者さんの受け入れも含め、しっかり運用していきたいと考えています。

2019年1月に当院健康増進センターは、日本人間ドック学会の機能評価認定施設更新審査を受け、2019年4月に認定更新が承認されました。その際に「人間ドック機能評価優秀賞」を前回に続き連続受賞（連続受賞は全国初）しました。保健指導の実施体制の充実、悪性疾患に関する検査のフォローアップの実施などが評価されての受賞でした。今後もしっかり検診の質を高めていきたいと考えています。

当院の毎年8月の院内行事に「病院こども探検隊」があります。今回は応募で小学6年生22名に参加していただき、手洗い、車いす、エコー検査、手術室（電気メス、内視鏡手術トレーニングなど）を体験してもらいました。病院が多くの職種のチーム医療で成り立っていることを理解していただき、この中から将来医療の仕事を目指す子供さんが、一人でも育ててくれることを願って今後も継続していきたいと思っています。

病院統計として、病床稼働率（動態）86.3%、新規入院患者数6,837人、手術件数1,779は昨年よりいずれも軽度増加。平均在院日数は、地域包括ケア病棟の影響で13.7日（前年度:14.5日）に短縮。紹介率90.4%、逆紹介率134.9%は前年同様に高く、地域の先生方に多くの患者さまをご紹介いただき、また逆紹介を受け入れいただき心から感謝申し上げます。救急外来患者数5,796人（うち救急車搬送数2,510台）は、いずれも前年度より少し増加しています。2019年度もさらにお断りを減らし、地域医療支援病院として地域の救急医療に貢献していきたいと考えています。

白十字会90周年を迎える2019年度も、しっかり足元を見据えて謙虚に、地域における当院の五つの役割（救急医療、がん治療、専門医療、在宅医療連携、予防医学）をしっかり認識し、今後も連携強化を最重要課題と位置づけ、全職員一つとなり、さらに質の高いそして安心とやさしい医療と看護を提供できるよう努力していきたいと考えています。

今後とも皆様のご指導とご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い致します。

# CONTENTS

## 序

### 刊行にあたって

## 1 病院概要

沿革	6
理念・方針	11
基本情報	14
病院の取り組み	18
地域医療支援病院	19
臨床研修指定病院	22
脳卒中センター	23
認知症疾患医療センター	23
長崎県指定がん診療連携推進病院	24
日本医療機能評価機構認定施設	24
メディカル・ネット99	25
PREMISs	26
ISO15189	27
社会貢献(CSR)活動	28
病院機能評価 受審	29
人間ドック機能評価優秀賞連続受賞	30
学会認定施設	31
施設基準	32
電子カルテ(HOMES)紹介	34
ボランティア活動	34
白十字会Institute	35

### 病院統計

診療実績	38
紹介率・逆紹介率	39
月別外来延患者数(1日平均)	39
月別入院延患者数(1日平均)	40
病床(動態)稼働率	40
平均在院日数	41
1日平均在院患者数(静態)	41
新規入院患者数(全体)	41

### 救急統計

救急外来受診者数と救急車搬入数	42
救急外来受診者の年齢分布	42
救急外来の診療科別内訳	43
救急車搬入時の診療科別内訳	43

### 診療情報統計

疾病大分類	44
疾病大分類(推移)	44
悪性新生物	45
悪性新生物上位15部位(推移)	45
退院患者(上位30疾患)	46
死亡退院患者率	47

### 臨床評価指標

褥瘡有病率・褥瘡推定発生率	48
入院患者の転倒・転落発生率	49
入院患者の転倒・転落による損傷発生率(レベル3以上)	49
輸血製剤廃棄率	50
術中・術後の大量輸血患者の割合	51
糖尿病の患者さんの血糖コントロールとHbA1c(HbA1c<7.0%の割合)	52
感謝状	53

### 満足度調査

## 2 診療部

外来診療担当表	62
呼吸器内科	64
腎臓内科	66
脳神経内科	68
リウマチ・膠原病センター	70
糖尿病センター	73
消化器内視鏡センター	75
人工透析センター	77
循環器内科	79
外科	81
整形外科	84
脳神経外科・脳血管内科	86

心臓血管外科	89
皮膚科	92
小児科	94
泌尿器科	96
眼科	98
耳鼻咽喉科	100
放射線科	101
麻酔科	103
病理部	104
認知症疾患医療センター	106
歯科	110
健康増進センター	111
研修医の紹介	113
学会賞等受賞記念学術講演会	114
学会発表実績	115

### 3 各部

看護部	134
薬剤部	140
放射線技術部	142
臨床検査技術部	144
臨床工学部	146
リハビリテーション部	148
栄養管理部	150
感染制御部	152
医療安全管理部	154
臨床研究管理部(治験管理室)	156
事務部	
医療事務課	158
診療情報管理課	158
医局秘書課	160
資材課	161
施設課	162
システム開発室	163
総務室・財務室・人事管理室・広報室	164

地域医療連携センター	165
入退院支援センター	168
健康管理部(健康増進センター)	170

### 4 委員会

委員会組織図	172
活動報告	
病院機能向上推進室会議	173
治験審査委員会	173
研修管理委員会	174
臨床検査精度管理委員会	174
救急部運営委員会	175
がん化学療法レジメン審査委員会	175
医療機器安全管理委員会	176
医薬品安全管理委員会	177
認知症ケア推進委員会	177
院内がん登録委員会	178

### 5 巻末資料

院内行事	180
新規医療機器紹介	181
新聞記事などの紹介	181
患者会・家族会活動実績	182
資格取得奨励支援制度	186
提案制度	186
学会発表実績	187